



## 特集：問題解決型アプローチ

## 課題研究は帝京SPHでの学びの集大成

**問** 題を解決する。それをなぜ帝京SPHでは大切にするのでしょうか。それはわたしたちが本当に「公衆衛生」を実現する人材、人々の健康度を高める専門家を育成したいと願っている専門職大学院だからです。今回のニュースレターでは帝京大学の教育方法のひとつである**問題解決型アプローチ**を特集します。そして特にMPH修了時に必要な課題研究とその教育体制を公開します。ひとりひとりの学生に個別の指導教員、アカデミックアドバイザー、サブグループ、教員全体が一生懸命。そんな帝京の教育をご覧ください。

学生たちは課題研究に公衆衛生学の**基本5分野**の知識や技能を駆使して取り組みます。そして帝京でもうひとつ大切にしている、MPH修了生に必要な**コンピテンシー**を高めるのです。まずは社会を眺め、あるいは自分の経験から課題を見つけます。そして疫学的手法を用いた研究計画をたて、データを得た後は生物統計学の方法で分析をはじめ、実際にSASなどの統計パッケージを用いて解析を行います。問題解決方法を探るために利害関係者の分析や既存の法律や政策にも詳しくなります。国際情勢を知ることも必要でしょう。経済的評価を要することもあるでしょう。そのためには保健医療政策学や医療管理学などで学んだ知識がいかされます。さらには問題解決方法を考えたとしても、それを通じていかに人々の行動を変えて健康に導くか？大きな課題を健康行動社会学での学びに基づき考えます。健康問題に関するリスクコミュニケーションなど、環境保健学での知識も用いることとなります。SPHでの体系的な学びをリンクさせて考え、異なるバックグラウンドの教員・学生が議論し、問題解決を考えるこのプロセス。それこそ「課題研究は帝京SPHの学びの集大成」といわれるゆえんです。

### ◎ TSPH News vol.2 目次

#### 特集：問題解決型アプローチと課題研究

課題研究の教育体制、過去の研究テーマ

- 公衆衛生 はじめの一步
  - 疫学(えきがく)とは？
  - 回答者：桑原恵介 助教(疫学)
- TSPHの窓 教員の研究テーマ一挙公開
- 教員インタビュー 第3回
  - 中田善規 教授(医療経済学)
- 2015年度後半の主なできごと
- TSPHコホート 卒業生を訪ねて(2)
  - 熊谷直子さん(第4期生・管理栄養士)
- 2015年 大学院生の活躍

# 特集：問題解決型アプローチと課題研究

多様な分野にわたる公衆衛生の課題を解決するには、データを分析して発表するだけでは足りません。社会問題を取り上げてそれを分析した後、その結果をもとに政策やプロジェクトを企画立案し、実施にこぎつけるよう交渉することが求められます。本当に問題を解決する方法を身につけるために、帝京大学では次の8段階から成る問題解決型アプローチの習得を目指して教育しています(下図)。とくに卒業時に提出が求められている MPHの課題研究とDrPHの学位論文にとって重要な枠組みです。特集ではその8つのステップを追ってみることにします。

大学院だから「論文を書く。」でも、さらにその先へ。それが専門職大学院の役目だと帝京SPHでは考えています。

本当に社会を変える専門家を育てたい。それが我々の願いです。

## 1. 問題の認知・発見

あなたが現状を変えたいと思う課題は何ですか。

あなたがこれまで社会を眺めていて人々を不健康にしていると感じた何かがありますか。もしくはあなたがこれまで保健医療にかかわる者として、病院や役所などの組織で働いていて困ったこと、問題だと思ったこと、もっと良くしたいと感じることはありませんか。そんな課題を選び出します。それは重要なことであり、かつあなたが何かしら働きかけうることでなくてはなりません。そういう意味で、

「あなたが是非、現状を変えたいと思う公衆衛生の課題は何ですか？」

それを帝京SPHの疫学ではYと呼びます。数式みたいですね。もちろん、そこから発生していることばです。次の問題の定式化につながっています。Yは、はじめは漠然としているかもしれませんが、丁寧に考えていきましょう。

## 2. 問題の定式化 原因と結果は何か？

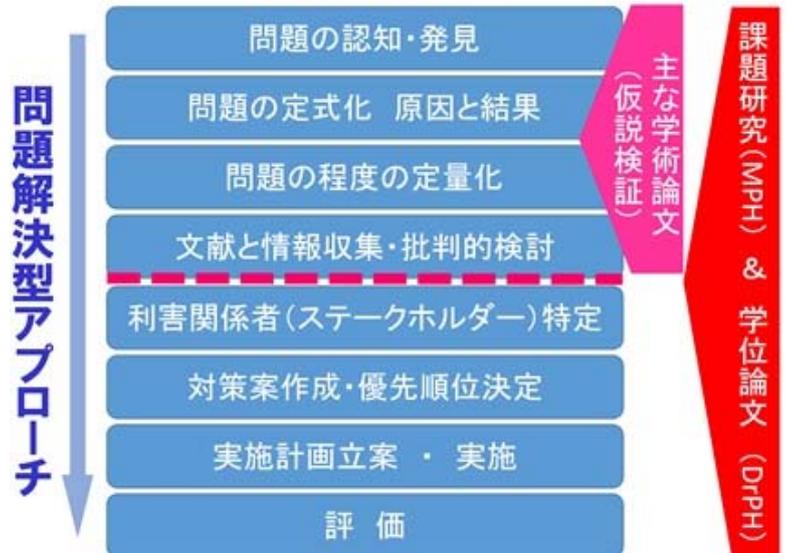
仮説をたてる：問題の原因(X)と結果(Y)

あなたが考える公衆衛生の問題の原因は何か？どうしてそういう結果になるのか？問題をシンプルに考えて仮説をたてます。すでに知られていますが「運動不足が原因で心臓病のリスクが高まる」ことや「喫煙が原因で肺がんになる」などが原因と結果を示しています。

この原因に相当することを帝京SPHの疫学ではXと呼びます。またしても数式みたいですが、シンプルに考えるためにこう呼ぶのです。原因Xも初めは漠然としたものであるかもしれませんが、検討を進めるうちに変わるかもしれません。第2、第3のXが現れるかもしれません。複数のXの中で、大きくYに影響するもの、かつ変更可能性の高いものを見つける必要があります。

ここで注意すべきなのは、最終的にはXもYも定義が明確で、プラス(+)/マイナス(-)のどちらかに決められるか、または測定できるものでなくてはなりません。

原因のXはあなたが取り組んで変えられるという介入して変えられる可能性があることも重要な要素です。



## 3. 問題の程度の定量化

原因(X) → 結果(Y) の関係を測る

大学院で学び分析能力を身につけるからには、社会の現状を眺めて「タイヘンな問題があるんです！」と叫ぶだけでは足りません。「問題はどの程度深刻なのでしょうか？」適切に伝えるためには、問題の原因(X)と結果(Y)についてそれぞれを最も適切に表現する尺度を考える必要があります。つまり、どうやって問題の原因と結果の重要性を「測るか？」ということです。XとYそれぞれに関する量的情報やデータを集めて、あなたが懸念している「問題Yがどの程度重大なのか」を測ると同時に、「Xの変更によりYがどれほど大きく変わる可能性があるか」を探りましょう。ここで疫学や統計の素養がいきできます。

## 4. 文献と情報収集・批判的検討

あなたが考える問題について、過去にはどのような議論がなされていたのでしょうか。学術的研究、行政等資料などから調べて整理しておきます。「これまでに何がわかっている、何がわかっていないのか？」単純なようでいて重要な課題です。もし学術的にだいたい結論が出ているのであれば、あなたが考えたXとYは実は今一番大事なXとYではない可能性があります。

Xが原因でYという問題が起こることが分かっているのに、その問題Yが続いているとしましょう。その場合はYを変化させるためにさらにXという原因を確かめるよりは、今よりYを変化させられるXをもう一度考えた方が良いでしょう。

たとえば肺がん(Y)の原因をタバコ(X)とするよりは、タバコの値段が安いことを原因(X)としてみてはどうでしょうか？

さて、ここまでは通常の学術論文として、とくに仮説検証型の論文になりうる内容です。けれども、科学的根拠をあげて原因と結果をつきとめたとしても、実際にその論文や情報だけでは、人々を健康にする政策やプロジェクトの立ち上げに至らせ、人々の健康に関する行動を変えることにはなりません。これから先を考えてこそ「公衆衛生」の本領発揮といえるでしょう。

## 5. 利害関係者(ステークホルダー)特定

あなたが分析した問題の程度について、データなどの科学的根拠を示すと、すぐに問題の解決に賛成する人も多くいるでしょう。けれども賛成する人ばかりではありません。反対する人もいます。どのような立場の人がいますか？どのような反対意見がありますか？あなたが解決したい問題の関係者を同定して、その賛否の立場と影響力の強さ、そしてその関係者を動かす方法を分析します。こうした関係者を利害関係者(ステークホルダー)と呼びます。

利害関係者はまず、問題Yに対する立場や意見で分析しますが、次のステップ「6. 対策案作成・優先順位決定」と「7. 実施計画立案・実施」での対案選択に当たり、もう一度考え直す必要があります。なぜならば、いくつもの異なった対案や条件によっては、賛否の立場や影響力が変化することがあるからです。

## 6. 対策案作成・優先順位決定

問題解決には自由な発想で多くの方法を考えることが大事です。まずはあなたが思いつだけの問題解決方法をリストアップしてみましょう。どんなことでもいいです。ぜひまずは自由に。ストレートすぎる対策？いいでしょう。笑ってしまうようなもの？いいでしょう。とてもお金がかかる？いいでしょう。とにかくいろいろな対策案を考えてみてください。

けれども実際の社会では問題解決に携わる人、使えるお金、得られる資源も限られているのです。実現可能性を考える必要があります。そこで優先順位をつけて対策案を選定する必要があります。もしくは、実現可能性自体を高めるためにすなわち、自由な発想のアイデアを実現すべく、利害関係者に働きかけたり、人を動かすしかけを考える必要もあります。お金や人材を獲得する方法を考えて自分が「これだ！」と思う対策案の優先順位を上げることも大切なことです。

どのように資源を分配するか。どのような案を企画するか。効果はあるのか。どのくらい時間がかかるのか。そして、公衆衛生の課題はひとりで取り組むことは不可能でしょう。あなたは利害関係者にどのようにはたらきかけますか？

## 7. 実施計画立案・実施

さて、優先順位がきまったのなら、対策案を実施するための詳細な計画をたてます。本当に計画をたてて実施すると、それはそれで様々な問題が出てくるものです。1つの立場にたつて、本当に実施計画書を書く訓練も必要です。そして可能であれば対策案を実施します。

## 8. 評価

実施した対策案は成功しましたか？失敗しましたか？いずれにせよ何らかの対策を実施した後にはその評価を行います。要するに反省会です。反省をするにしても感想を述べて終わるわけにはいきません。問題解決には多くの人と時間、お金もかかっているのですから。そして何よりあなたはその問題を解決したいのですよね？対策を講じた後の評価には根拠が必要です。したがって評価は最終的には「問題がどのくらい変わったか？」で判断します。問題Yの変化度ということですね。これをアウトカム(Outcome)と呼びます。

けれども今後のより広い観点からみた問題の改善のためには、組織や人材、資金、機材といった構造(Structure)の評価や最終的なアウトカムに至るまでの人々の主体的参加や意識づけ、目的達成のための仲間づくりなど過程(Process)の評価も忘れてはなりません。こうした評価を経て、そしてまた公衆衛生の問題解決は続きます。

特に、途中の1~4のステップの部分を深めると主に仮説検証型の通常の学術論文の執筆につながります。そしてステップ5~8も経済評価や政策分析などとして、しばしば学術論文にもなっています。分析方法も量的分析、質的分析などさまざまです。帝京SPHでは既に多くの卒業生や在学生在が、自分の課題研究を学術論文にして公表しています。こうした論文執筆や学会発表など、公表に関する技術も大学院で学ぶ専門職技能のひとつです。

実際にすべてのステップを終了させる学生もいますが、1~2年の短い在学期間ではこのステップの6~8の実現は困難であることもあるでしょう。しかし、ステップ4までで終わらせないのが帝京SPHの教育です。実際に行うことを想定してこの手順に従った課題研究報告書を仕上げます。

**本当にあなたを変えたいと願う問題は何ですか？それが一番大事。**

※ 本特集には帝京大学SPHオリジナルホームページでの説明を改変して用いています。

# これが帝京SPHの課題研究教育指導体制 3段階構造

## 個別 - 分野横断サブグループ - 全体 だから面白い。そして頼もしい。

帝京大学でMPH取得に必須の課題研究。とはいえ、はじめての調査研究や問題解決型方式の課題に戸惑う学生も多いです。帝京大学では学生に最低2名の教員を配置して個別にサポートしています。課題研究を主に指導する指導教員と生活面など自由に相談できるアカデミックアドバイザーです。さらにサブグループ体制と全体でチームで学生の課題研究を支援していきます。3段階構造でサイクルしていく頼もしい指導体制の様子をご紹介します。



入学時の4月に教務担当教員による全員の個別面談が行われ、それぞれの学生の興味や課題研究のテーマの希望を聞いていきます。そのうえで、公衆衛生の多様なバックグラウンドを持つ教員から通常1名の**課題研究指導教員**を決めて指導を開始します。同じく4月には、主に講義の履修や進路、生活全般などについて相談する**アカデミックアドバイザー**を研究指導教員以外から1名つけます。最低2名の教員が1人の学生を担当しています。また4月には**集中講義「調査・研究法概論」**で研究をはじめの基礎を学びます。



担当する課題研究指導教員は学生の希望を聞いてじっくり話し、問題解決型アプローチに則った指導をしていきます。特に「問題の定量化」の部分で疫学調査を行うことも多いことから研究の倫理的配慮も指導します。たとえ調査フィールドがなくても、教員の研究に入ることや、専門家に協力を要請するなど代替案を用意しています。個別指導は各々の進度にあわせて最後まで行います。

全体発表後に届く個別のコメントなどをもとに、改めて各指導教官の個別指導を受けます。上の写真はよく個別指導の様子がみられる指導ブースです。時にはここでアカデミックアドバイザーに進路指導を受けたり、愚痴も聞いてもらったり(?!)。課題研究も最終段階になると、学会発表や学術論文執筆指導を行います。多くの学生が成果を公表する経験を積みま



公衆衛生学の基本5分野からバランスよく教員が分けられ、サブグループ(A~D)を構成します。各学生は個別指導を受けている教員と同じサブグループに入り、小グループでの指導を受けるのです。各グループには疫学、統計、保健医療政策、国際保健、環境など、多様な先生方がそろい、多様な視点から指導を受けることが可能です。サブグループ発表会は公開されるため、他のグループ発表にも参加することもしばしば。学生は発表にも慣れてきます。



上の写真は全体報告会直後のサブグループ指導の様子。発表でどの点が良かったのか、至らない点はあったのか。すぐにサブグループでの指導を行っていきます。分野横断サブグループは講座制をとらない帝京SPHならではの指導体制です。



左の写真は全体報告会の様子です。いかにわかりやすく話をするのか。研究成果をもとにどのような対策案を計画するか。統計などの分析能力だけでは課題研究は終了しません。

全体報告会(MPH1年コースの場合、7月の中間報告と12月の最終報告)には、SPHだけでなく、帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座の先生方と学生全員が参加し、各学生の発表を聞いて質疑応答と評価を行います。大勢の前で緊張して真剣に議論した後は、報告会にあわせて年に2回の懇親会を行い、労をねぎらいつつ次のステップへの活力にします。

## 過去の課題研究と執筆者のバックグラウンド（抜粋）

学生の数だけ興味深い課題研究が行われてきました。医師や看護師といった保健医療従事者はもちろん、法律や経済学など多様なバックグラウンドを持つ学生が卒業しています。また国内外を問わず、職務経験を積んだ学生が学んでいます。

- 風疹ワクチン接種の医療経済評価 ―費用便益分析を中心に―（経済学）
- 乳幼児健康診査の受診率の向上に向けて ―アンケート調査を基にした未受診に及ぼす要因の検討―（医師）
- 中学生の心身の健康のための早期介入を目的とした食育体制の構築に向けて  
―学校・家庭連携型食育プログラムの開発と評価―（管理栄養士）
- 障がいのある在宅脳卒中患者の長期にわたる改善と主体性再獲得のプロセス（医師）
- ラオスで安全な出産は実現できるか？―熟練分娩介助者による出産の選択要因を探る―（経済学）
- 帝京大学におけるたばこ対策推進の検討（看護師）
- メディカルクラークに対する個人情報保護法に関する講義の効果について（法学・弁護士）
- 日本の助産師数・分娩施設数と出生数との関連（助産師）
- 広域スペクトル抗生物質の使用実態―診療報酬請求データを活用した解析―（薬剤師）
- フィリピン・モンタルバン地域における健康・栄養評価と大豆食品を介した健康教育の実践（管理栄養士）
- ある政令指定都市における重症以上救急搬送患者の30分以上の現場滞在時間と関連する因子の検討（医師）
- 労働者をエンパワメントする労働安全衛生活動の比較（医師）
- 5S-KAIZEN-TQMIによる職員のモチベーションと満足度への効果―ウガンダの導入・未導入病院での比較調査（看護師）
- 震災による健康・生活問題と社会関係資本との関係  
～「まち」に注目した石巻市及び女川町の在宅被災世帯調査の分析～（看護師）

### ● 公衆衛生 はじめの一步 疫学とは？

回答者：桑原恵介 助教（疫学）

「疫学」と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか？「疫」という漢字から、病気を連想されたでしょうか。疫学という言葉になじみがなくても、テレビや新聞、インターネット上で「最近、・・・という病気の患者数が・・・で急増している」といった病気の流行状況を報告したニュース、「・・・をする人ほど・・・という病気になりやすいことがわかった」といった病気を引き起こす要因を調べた研究結果を紹介した記事はよく目にするかもしれません。こうした人々の健康に関する事象の発生状況やその原因などを明らかにし、原因に介入することで健康問題の解決を図ろうとし、またそのより良い方法論を提供するのが疫学の役割です。したがって、疫学は人々の健康・生命を守ろうとする公衆衛生の要となる学問と言えます。

公衆衛生の現場は、手術室・治療室から広く行政まで、多岐にわたりますが、どこでも健康に関わる問題があり、それを解決するためにPDCAサイクルを回していく必要があります。このサイクルの段階に応じて、疫学も種類が分かれています。健康問題の現状を明らかにするのが記述疫学、健康問題の原因を検証するのが分析疫学、原因に介入しようとするのが介入研究と呼ばれています。分析疫学は、さらに、原因と病気の一時点の関係を見る断面研究、長期的な関係を見る縦断研究、病気になった人とならなかった人の違いを見る症例対照研究などに分かれています。

疫学では、研究で得られた結果の解釈も重要です。真実とは異なりたまたまそうなった可能性や、バイアスがかかっている可能性を考える必要があります。疫学の優れた点は、真の原因はわからなくても問題解決に役立つことです。日本での古い例としては、ニューズレター創刊号で矢野先生の挙げられた食事と脚気の話があります。最近では、疫学の考え方を健康経営に応用し、社員の健康実現のための資源の投資先を判断するために使われる事例もあるようです。臨床でも地域、職域などでも人々の健康に関わる方々には、疫学の考え方を身につけて、それぞれの健康課題の解決を進めてほしいと願っています。

T

S

P

H

の

窓

このコーナーでは学生の声、教員の研究フィールド、卒業生の活躍等、わが校の多彩な面をご紹介します。

## 教員の研究分野

教育者であると共に各分野の研究者集団でもある帝京SPHの教員たち。それぞれが行う代表的な研究分野を紹介します。

### 山岡和枝 教授（研究科長） 生物統計学

栄養・ライフスタイル教育の健康影響の効果評価、メタアナリシスの応用研究、健康感の国際比較調査

### 矢野栄二 教授 疫学・産業保健学

産業保健(石綿の健康影響、非正規雇用の健康影響)、タバコ対策、災害公衆衛生学、医学教育

### 井口直樹 教授 保健医療行政学

財政的制約がある中で質が高く、安心できる医療サービスは何か。医療保障政策

### 中尾睦宏 教授 行動科学・健康教育学

ストレスマネジメント、うつ病の身体化、職場のメンタルヘルス、心身症の診断

### 中田善規 教授 医療経済学

医療経済学、医療の効率性と生産性に関する研究

### 原 邦夫 教授 環境保健学・産業保健学

微小粒子状物質PM2.5の濃度への影響因子、健康影響予測評価(HIA)、低周波音・騒音評価

### 福田吉治 教授 疫学・産業保健学

社会疫学、健康増進・健康づくり政策、地域医療、産業保健

### 松浦正明 教授 生物統計学

個別化医療の実現に向けたオミックスデータ分析、がんのサブタイプ判定など診断支援のための統計学的方法論の研究

### 山本秀樹 教授 国際保健学

高齢化や非感染性疾病(NCD)、公民館の研究

### 内田俊也 教授 内科学（医学部・兼任）

内科学、腎臓病、高血圧、電解質異常など。SPHでは医学基礎・臨床医学入門を担当

### 高橋謙造 准教授 国際保健学・医療政策学

親子保健、学校保健、人間の安全保障の地域保健への適用、ワクチン政策

### 野村恭子 准教授 疫学（医学部・兼任）

疫学、医師の適正配置などの研究。本学の女性医師・研究者支援センター室長も務めています。

### 井上まり子 講師 社会疫学・国際保健学

健康の社会的決定要因、主に非正規雇用労働者の健康問題

### 顧 艶紅 講師 成育政策学

母子保健手帳、難病の疫学と統計学、微量栄養素と健康

### 根本明日香 講師 生物統計学

医薬品・教育介入の臨床試験の研究計画と適切な解析

### 桑原恵介 助教 疫学

生活習慣や労働環境と疾病発症に関するコホート研究、身体・運動の健康効果など

常勤の教員以外にも、客員教員、非常勤講師、連携機関など。多くの研究者、実務家の先生方が帝京大学SPHの教育を支えています。分野横断的な教育体制を持つ帝京SPHではどの分野の先生も身近にいます。TSPHを彩る多様な研究分野とバックグラウンドを持つ先生方。これからも相乗効果で良い研究と教育に励んで社会に貢献していきます。

研究や業績、研究費獲得状況などの詳細は[TSPHオリジナルホームページ](#)をチェック！

# TSPH 教員インタビュー 第3回

麻酔科医にして米国で経営学修士号（MBA）取得。医療経済学の中田教授にお話しを伺います。

第3回は医師でありビジネススクールでMBAも取得した中田善規先生をお招きしました。早速お話しを伺います。

- まずは医師になられたときにどうしてご専門に麻酔科を選択されたのでしょうか。

比較的新しい分野でしたし、これから伸びそうな分野だと思っていました。所属した医局に留学の機会もあって魅力的だったこともありますね。

- 実際に米国で臨床経験を積まれましたね。

マサチューセッツ総合病院(MGH)でレジデントとして3年間勤務しました。そこでは人間の解剖や病理などは万国共通ですが、医療の提供体制に違いが大きいことに気が付きました。特に医療サービスにはお金が付きものです。そこで経済に興味を持ったわけです。

- それで医学と経済学がリンクするのですね。イエール大学のビジネススクールで2年間学ばれました。医学と別の分野での勉強はいかがでしたか。

率直に言って、経済学は学問として良く出来ているなと思いました。理論があり、モデルがあり、説明が付きやすく、予測もでき、腑に落ちることがいくつもありました。

- ビジネススクールで印象的だったことは何ですか。

医療系以外の人々との交流です。医者は病院で医療従事者と患者さん(とその家族)くらいとしか交流がありません。健康な人も含めた世の中の広さを感じました。あとは企業社会の

ことなど病院以外のことを学べたのが大きかったです。

- MBA留学は大変だと聞きますが、いかがでしたでしょうか。

面白かったです。そして病院より楽でした。病院では人の生死に関わる手術なども経験するわけですが、大学での勉強にそういうことはありません。緊張やストレスから解放されて楽しく勉強した留学生活でした。

- 日本に戻られてからは現在の帝京大学ちば総合医療センターで勤務され、副院長にもなりました。

副院長になって病院経営について考える立場にありました。まさに医学とMBAが活かされる場で貴重な経験でした。

- 現在は板橋にある帝京大学医学部附属病院での麻酔科の勤務とSPHでの講義や研究を両立されています。先生の現在の研究について教えてください。

医療の効率性を研究テーマにしています。特に手術の効率性です。経営学やオペレーションズマネジメントの手法であるフロンティア分析を医療に応用して研究を進めています。あとは神奈川県の未病に関するプロジェクトにかかわっています。

- 臨床も研究もよく両立されていますが何か仕事の両立に秘訣はありますか？

確かに多くの仕事がありますが、同じ仕事はないわけですし、飽きずに楽しんでやることでしょうか。

- 臨床医学と公衆衛生は別のもものと考えられがちですが、両方に携わる中田先生はどの

ようにお考えなのでしょうか。

実際に医師や看護師などにとっては、国家試験で学んだ過去問や試験対策が最後に学んだ公衆衛生です。ですからイメージがとても悪いですね。つまらないと思いきり。けれども公衆衛生は幅が広く、臨床にとっても近いのです。それを訴えかけていきたいですね。

- そんな幅広い公衆衛生を学ぶのがSPHですが、先生からご覧になって帝京SPHをはどのようなところでしょうか？

革新的で素晴らしいところだと思っています。医学部の一部局だと限界がありますが、帝京のSPHは独立した研究科です。そして専任教員が様々な分野からそろっているのが良いところです。

- ビジネススクールもSPHも専門職大学院ですが、共通することは何でしょうか？

どちらも共通するのは「国際性」です。帝京SPHでも英語での授業など国際的な教育を目指したいですね。

- SPHで学ぶ学生や若手に何かアドバイスはありますか？

公衆衛生はいろいろなところに役立ちます。それに医療や公衆衛生はこれからまだ伸びる分野だと思います。文系の方にとってもSPHでの学びをステップにすることがキャリアスイッチになるといいですよ。

- 帝京SPHに入学する方に一言。今までにない刺激があるところです。きっと公衆衛生のイメージが変わりますよ！



中田 善規 教授

専門：医療経済学、医療経営学、麻酔科学  
麻酔科指導医

1990年東京大学医学部医学科卒業。マサチューセッツ総合病院麻酔科レジデント(1991~1994年)。1996年にエール大学経営大学院修士課程(MBA)終了後、1999年東京大学経済学部卒業。帝京大学医学部附属市原病院(現・ちば総合医療センター)副院長の後、現在は帝京大学医療情報システム研究センター長、帝京大学SPH開学と共に公衆衛生学研究科教授。

担当授業：医療経済学、医療管理学、リーダーシップ・マネジメント論

趣味：犬の散歩



# 2015年度 後半の主なできごと

## 9月19日 中国小児科医師会長ら来訪と国際交流会

中国北京市首都小児科研究所副所長・張霆先生、中国小児科医師会会長朱宗涵先生などから、中国僻地における子どもの栄養、災害と小児科学、および中国の母子保健現状について講演いただきました。

## 9月26日 第1回 帝京大学SPH 同窓会総会 開催

第5期生を迎えた本学も卒業生が増えてきました。今年から同窓会も定期的に開催していくことになりました。SPHを巣立った卒業生と在校生と教員。同じ場にいた仲間としてこれからもつながりを大切にしたいものです。

## 10月15日 豪州・ニューカッスル大学 Derek Smith教授の授業

「臨床疫学概論」で行っている学術論文の批判的吟味の授業に豪州・ニューカッスル大学(The University of Newcastle)のDerek Smith教授をお招きしました。Smith教授が共著者として関わられた論文を読んで、疑問に思った点を直接尋ねる機会を設けました。

## 10月27日 マヒドン大学 ASEAN Institute for Health Development 学術協定調印式と講演会開催

タイのマヒドン大学AIHDと学術協定を交わしました。研究科長らが同校を訪問し、公衆衛生の新しい教育や各教員の研究紹介を行う講演会を開きました。

## 12月17日 課題研究 最終報告会

緊張の面持ちの中、今年も課題研究の最終報告会が行われました。全員の前での発表と報告書の提出をした後、教員からのコメントを受けて2月の最終提出とその最終審査合格を目指します。

## 1月 第5回 ハーバード特別講義

### ケンブリッジ大学・オクスフォード大学の先生の講義も開講

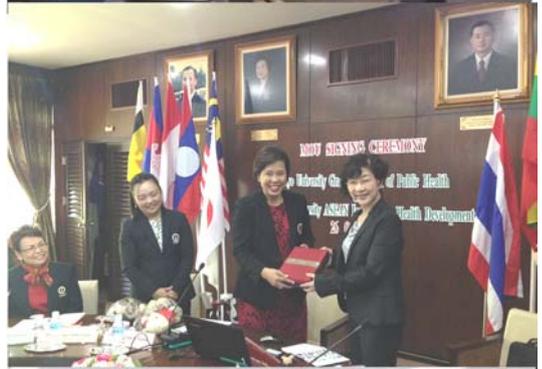
今年はハーバードからイチロー・カワチ先生(社会疫学)、Marcello Pagano先生(生物統計学)、Stefanos Kales先生(産業環境保健)の3名の先生方、そして、ケンブリッジ大学のEffrossyni Gkrania-Klotsas先生(疫学)、オクスフォード大学のAlastair Gray先生(医療経済学)をお迎えして恒例の特別講義が行われました。5回目となる今年は日本学生支援機構(JASSO)の奨学金を得て、帝京大学のアジアの提携校の参加が多くなりました。まさに世界が教室という雰囲気の中で講義が繰り広げられました。  
※講義が新聞で報道されました(2016年1月31日付 産経新聞 朝刊掲載)

## 2月 コミュニケーションのための特別講座

広告業界関係者によるヘルスケアのためのマーケティング&コミュニケーション講座(8回)、新聞編集委員による「新聞と健康情報」の特別講座を開催しました。

## 3月21日 卒業式 & 卒業記念パーティ

2015年度卒業式が日本武道館で挙行され、帝京大学SPH修了生は公衆衛生学修士(専門職)(Master of Public Health, MPH)を授与されました。研究科の卒業証書授与式ではこれまでの道のりを振り返りながら旅立ちの日を迎えました。夕方の卒業記念パーティでは、教員、卒業生、在校生一緒に喜びをわかちあい、和気あいあいの楽しいひとときを過ごしました。





## TSPHコホート：卒業生を訪ねて（2）

熊谷直子さん

（第4期生・管理栄養士）

熊谷さんは管理栄養士として横浜市内の病院で勤務しています。卒業生としてみた帝京SPHのことや現在の様子を伺いました。

- まずMPH取得のきっかけを教えてください。

管理栄養士として働く中で、体系的に業務を評価してまとめ、業務の方向性を適切な方法で評価して、次のキャリアステップに進みたいと思いました。病気を抱える患者さんとかかわる中で、健康な段階から病気になるまでのプロセスがあり、健康な段階で病気を食い止める方策を考えたいと思って大学院進学を決めました。多領域の方がいる視点で学ぼうというのもMPH取得を希望したきっかけです。

- 当初の目的は実現されましたか？

そうですね。いろいろな環境で働いた人とのディスカッションがためになりました。違う価値観を持った仲間との交流、そして前向きで意義のある討論が勉強になりました。多様な価値観を後押しする教員と少人数な指導体制も良かったことです。

- TSPHでの学生生活で最も印象深かったことは何でしょうか。

先生方も経験に基づいた教育を行っています。実践者が集まっている意義は大きかったです。実践家が実践家を教えているという感覚がありました。

- SPH時代にやるべきことは何でしょうか？

わからないことをわからないままにしないことです。1つ1つ自分の中に落ちてくるまで学ぶべきです。今は働き始めて漏れていたことに気が付いて埋めていたりして・・・あとは課題研究の意味は大きかったです。

- 本号の特集は課題研究なのですが、どのようなテーマを研究されたのでしょうか？

課題研究では虚弱と低栄養というテーマについて取り組みました。理由は、病院にいたときに低栄養がもとで歩けず、動けず入院してくる患者さんがいたことです。これがなぜかを掘り起こしたくて研究のテーマにしました。

- 課題研究をやり遂げて感じたことは？

課題研究として取り組むことで、日々の病院勤務では見えなかったことが見えてきました。それはデータの分析であり、他分野の同期との議論の結果でした。指導教官の山岡教授のご指導が受けられたのも良かったです。あとは同期の医師でも産業医、リハビリテーション医、プライマリケア医など様々な医師がおり、ほかにも海外で仕事をしてきた同級生の視点など、学ぶことが大きかったのを感じます。

- SPHの多様性がいきたわけですね。課題研究は今のお仕事とのつながりがありますか？

はい。もっと上流で（問題の本当の原因）に関与できるのでは？と思い、具体的な方法を見つめる機会になりました。いままだ仕事上でぶつかりながらではありますが、考えながら取り組んでいます。SPHで学び、病院ではできなかったこと、とくに地域や分野から離れた人々へのアウトリーチ活動を考え、その人々に還元することを考えています。実務に戻り、学んだことを活かしながら働けることがうれしいです。

- SPHで大変だったことは何かありますか？

時間管理です。多くの課題をこなすことに苦労しました。でも苦しんだおかげでどこにどのくらいの時間がかかるかわかっており、先に手を打てるようになりました。

- それはよかったです。公衆衛生の勉強以外の収穫ですね。そんなふうに困難を共に乗り越えた同期とのつながりは今もありますか？

先日外の質的研究の勉強会などで同期に会いました。卒業後も皆成長しているのを感じます。お互い、何をめざしているかわかっているもの同士。そして利害関係もありません。そうした無償で力を貸してもらい、こちらも貸すことができる仲間とはこれからもつながっていくのですね。

- 学生生活の思い出の場所は？

大学院生室はかけがえのない場所です。仕事をしながら学ぶ人も多いため、研究や勉強に集中する重要な場でした。皆で宿題をやったり課題研究に取り組んだり、ディスカッションしたのは良い思い出です。

- TSPH希望者にひとことお願いします。

自分の価値観、疑問、経験を持ち込んでくると良いと思います。同じようなほかの仲間からの影響もあって視野が広がります。ここを選ぶ人っていいですね。私はもっと入学前に勉強してくればよかったと思いましたが、わからない中でも先生方は丁寧に教えてくれます。裸一貫で来てぶつかってみてください。取り繕ってきてもすぐに真っ裸になってしまいますよ。でもそれでいい。自分をそのまま受け入れてくれる場なんです。

- キャンパス周辺でお薦めの場所は？

駅のそばの日本酒がおいしい居酒屋さんです。みんなでよく行きました。ときどき仲間と商店街まで夕ごはんを食べにも行きました。お出汁のきいたご飯を食べて落ち着いたこともいい思い出ですね。

- 熊谷さんにとってTSPHとは？

ほっとできる場所です。

- 今日はどうもありがとうございました。これからもご活躍を期待しています。

## 2016年9月16日～19日 APACPH

### 第48回 アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議

帝京大学にて開催！抄録締切は2016年5月末日

皆様のご参加をお待ち申し上げます

第47回大会（インドネシア・バンドン 2015年10月21日～23日に開催）では次回大会の案内ブースを設置しました。右の写真は案内を行う山岡和枝研究科長と高橋謙造先生です。第47回大会長でインドネシア大学のKusumayati公衆衛生学部長と共に。



2015年度も大学院生の活躍が目立ちました。一部をご紹介します。

## 論文を出版しました

渡邊純子さん(MPH2年コース)が課題研究で得られた成果の一部を日本公衆衛生雑誌に原著論文として発表しました。渡邊純子, 渡辺満利子, 山岡和枝, 根本明日香, 安達美佐, 横塚昌子, 丹後俊郎. 中学生におけるライフスタイルと愁訴との関連性-熊本県の横断調査から-. 日本公衆衛生雑誌, 63(3), 113-125, 2016

## 東京都医師会のシンポジウム 医師のキャリア形成についてSPH学生が講演しました

2016年3月19日(土)、平成27年度東京都医師会による「医学生、研修医等をサポートするための会」-新専門医制度とキャリア形成を考える-のシンポジウムにおいて、MPHコースの竹之下真一さんが「東京医科歯科大学外科系初期研修終了後に、公衆衛生大学院に入学した理由」と題して講演しました。

## 学会発表 (演者は筆頭演者のみを示しています。)

### 12th Asian Congress of Nutrition 2015年5月15日 (横浜)

渡邊純子 A cluster randomized controlled trial to assess effectiveness of dietary life style education program for adolescent in Kumamoto, Japan

### 31th International Congress on Occupational Health (ICOH) 2015年6月1-4日 (韓国)

宋 裕姫 Job promotion and mental illness: A case-control study within a Japanese manufacturing company cohort

### International Behavioral Health Conference- BeHealth 2016 2016年1月16-17日 (香港)

星野つかさ What makes Health Workers Motivated Toward Quality Improvement Activity in Uganda- Focusing on Transformational Leadership and Organizational Social Capital

### 19th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) 2016年3月14-15日 (千葉)

麻生保子 Association between behavioral and psychological characteristics and room environments among nursing or social work students.

### 第74回 日本公衆衛生学会 2015年11月5-7日 (長崎)

米倉あゆみ 帝京大学板橋キャンパス無煙化に向けた取り組みと経過

宋 裕姫 昇格によってストレスは悪化するか

渡邊純子 クラスタ-無作為化比較試験による中学生のためのPADOKの愁訴低減への効果の評価

### 第22回 日本行動医学会学術総会 2015年10月16-17日(仙台)

西野真理 乳児家庭全戸訪問事業:乳児虐待の予防に向けた標準化質問票の開発

## 編集後記

帝京大学SPHで問題解決をするというのは、まず社会を見ることから始まります。このニュースレター読者の皆様も、何か変えたい問題を日々抱えながら保健医療の現場で活躍しているかもしれません。もしくは保健医療以外の分野からいかに健康にアプローチするか思案しているかもしれません。「あなたを変えたいと思う問題は何ですか?社会のどのような部分に疑問を持っているのでしょうか?」帝京大学で分析する手法を学んでみませんか。来年は第48回APACPH、帝京-ハーバード特別講義など帝京の教育を体験するイベントが数多くあります。是非、キャンパスを訪れてください。皆様のご参加をお待ちしております。

発行: 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科

お問い合わせ

帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課

〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1

TEL: 03-3964-3294 (直通)

e-mail: tsphgakkui@teikyo-u.ac.jp

編集・作成: 桑原恵介・井上まり子